

スポーツと知的財産

長野県知財総合支援窓口 久保 順一

1. はじめに

コロナ対策で抑制せざるを得なかったスポーツ活動が、サッカー、野球、駅伝等の大会開催や応援・観覧が徐々に解禁され、コロナ禍以前の盛り上がり近づきつつあります。

本稿では、スポーツの動向を知的財産面から調査・考察します。知的財産は産業や経済の表象（シンボル）でもあり、勝負や技術を楽しむ本来のスポーツとは異なる面から情報を得ることができ、知見が広まる可能性があります。



2. 特許出願動向

スポーツに係る以下の特許分類（IPC）の年別の特許出願動向を確認しました。

A 6 3 B：身体の訓練、体操、水泳、登はん、またはフェンシングのための装置；球技；訓練用具

A 6 3 C：スケート，スキー，ローラースケート；コート，リンクまたは類似のものの設計または配置

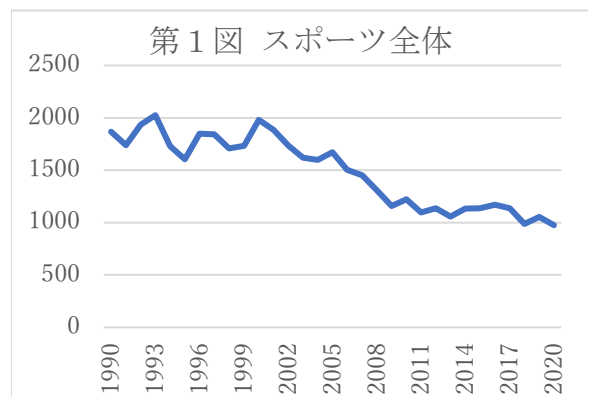
A 6 3 D：ボウリングゲーム；そのための設備；玉突き等

2-1 スポーツ全体の動向（第1図）

多い年には2000件を超えていましたが、2000年をピークに減少し、現在では半分以下の約1000件に減少しています。そこで、個々のスポーツについて確認します。

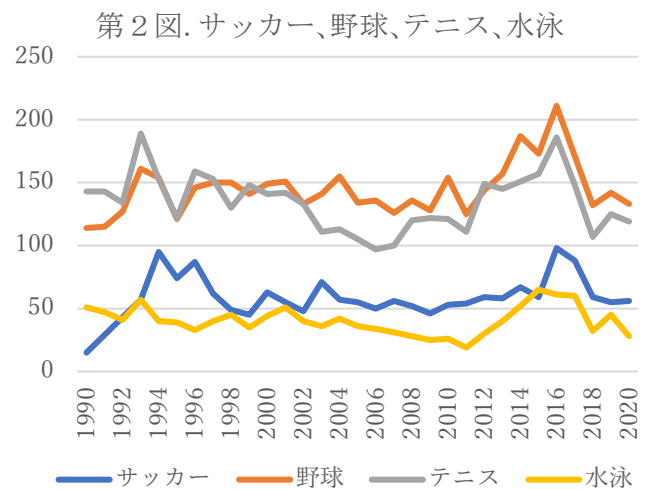
2-2 各スポーツにおける動向

件数が比較的多いサッカー（蹴球）、野球（ベースボール）、テニス（庭球）、水泳（スイミング）、スキー・スノーボード、ゴルフ（芝球、孔球）の年別の特許出願動向を確認しました。他のスポーツについても確認しましたが件数が少ないため、前記種別限定して考察します。



(1) 件数が維持されているスポーツ(第2図)

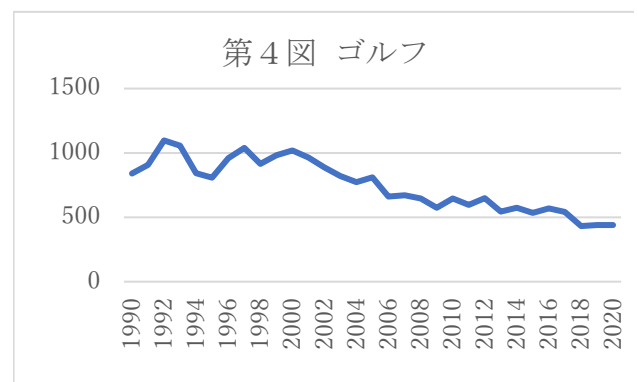
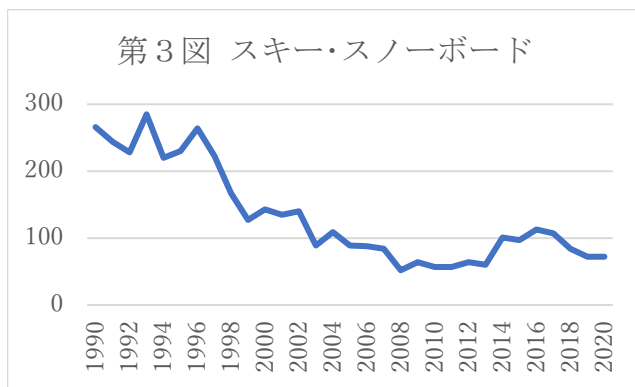
サッカー(蹴球)、野球(ベースボール)、テニス(庭球)、水泳(スイミング)は、増減はあるもののほぼ一定数が維持されています。いずれも1993年、2016年がピークになっており、オリンピック等の大きな大会の影響かと思われま



(2) 減少傾向のスポーツ(第3、4図)

スキー・スノーボードとゴルフが減少傾向にあり、両者共にブームが去りつつあることを表わしていると思われま

- ① スキー・スノーボードは、リレハンメルオリンピック(1994年)や長野オリンピック(1998年)前までは年200件以上の出願が維持されていましたが、以降は減少が続き、現在は70件程に減少しています。
- ② ゴルフにおいては、2000年までは1000件前後であったものがその後徐々に減少し、現在は440件で最多時の4割程になっています。他の競技に比べて件数が多く、その減少はスポーツ全体の出願件数動向に大きな影響を与えています。しかし、年齢的にも幅広く浸透しており、経済的にも有効なスポーツであると云えます。

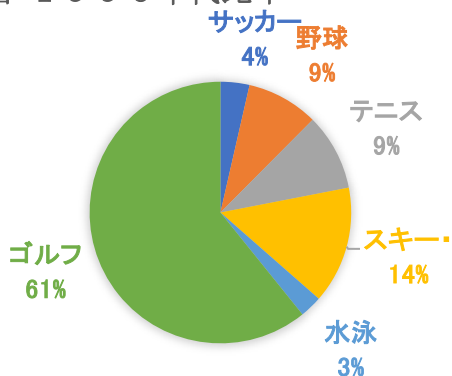


(3) 種目別比率の変遷(第5、6図)

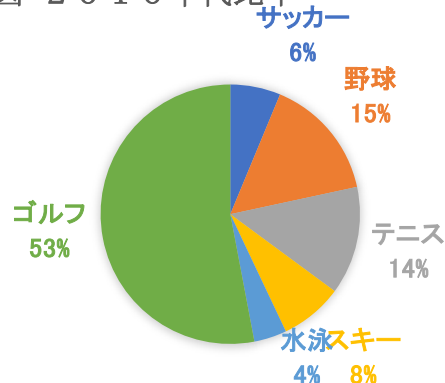
対象スポーツの合計数に対するそれぞれのスポーツの出願件数比率を、1990年代と2010年代で比較しました。

その結果、サッカー、野球、テニス、水泳に関する研究・開発による特許出願は増加したものの、スキーは14→8%、ゴルフは61→53%に減少していることが全体に対する比率の面からも確認されました。

第5図 1990年代比率



第6図 2010年代比率

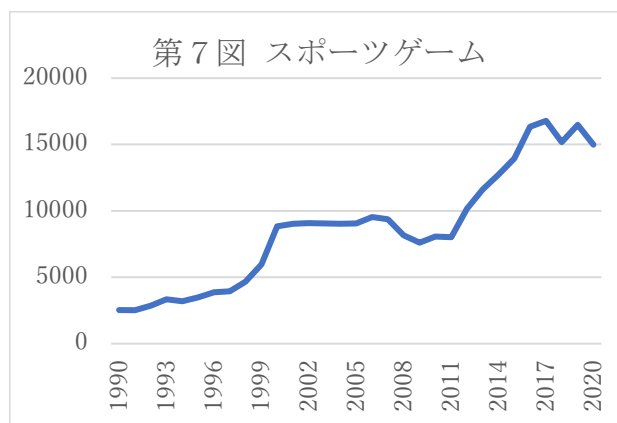


(4) 長野県の動向

長野県内からの特許出願は、1990年代には20件/年前後であったものが漸減し、現在は5件程になっています。スキー及びゴルフ、特にスキー関係の開発減少の影響が出ていると思われます。

(5) スポーツ関係のゲーム (第7図)

特許情報検索システム (J-PlatPat) にスポーツ名を入力するとゲームに関する出願が多く抽出されます (分類A63F・G・H)。前記のように、実動のスポーツに関する出願は減少傾向にあるものの、ゲームソフト等については増加しています。1990年には2500件/年程だったものが2000年には8800件、2020年には15000件と急増しており、身体を動かさずに楽しむ傾向が顕著になっています。



また、「eスポーツ」の語は2013年の海外からの特許出願で初めて使用され、その後年々増加しています。

3. 商標出願動向 (第8図)

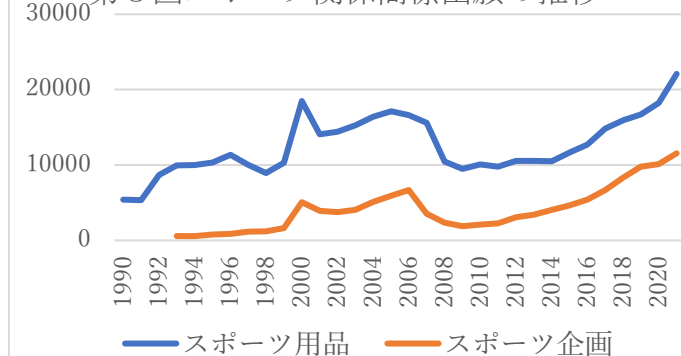
スポーツを代表する以下の指定商品・役務の類似群コードについて、商標出願件数の推移を確認しました。

24C01: 運動用具、運動用特殊衣服 (靴を含む)

41F01: スポーツの興行の企画・運営又は開催

その結果、24C01及び41F01共に増加傾向にあります。オリンピック (夏季、冬季) との関係を見ると開催年の1~3年前に

第8図 スポーツ関係商標出願の推移



増加する傾向にあり、長野オリンピック（1998年開催）時も1995～1997年に増加しています。なお、2000年に突出しており、その後2002年にはアメリカでソルトレークオリンピックが開催されていますが、突出の正確な理由は不明です。

4. まとめ

スポーツは子供等若年層の教育の一環であると共に、大人を含めて健康維持、身体作り、仲間作り等の人生の楽しみ・有意義な活動の一環であります。

一方、スポーツの隆盛や変遷に伴って、使用される用具・設備の種類、内容や数量への対応が必要になり、関係する産業の開発・生産動向に影響を与えています。

長野県知財総合支援窓口は、知的財産面からこれらの前向きな活動の支援とともにトラブルの防止に尽力したいと考えています。知的財産権を切り口として、産業や経済の発展に寄与すべく支援を行いますので、ご活用をお願い致します。

（原稿作成2023年2月）